

目指す学校像	子ども・保護者・地域の期待に応え、信頼される学校
重点目標	1 「真の学力」の育成をめざす教育の充実 2 児童が安全で安心して学べる教育環境の整備 3 保護者、地域の願いを踏まえた学校運営と積極的な情報発信 4 教職員研修の実施

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日令和7年2月18日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均、市平均と比べて良好な結果である。理科も同様 ○学校評価において、「学習内容の理解」に関する質問項目に肯定的な回答をした児童の割合は高く、学習意欲が高い。 <課題> ○授業におけるタブレットPC(情報共有ソフト)の積極的かつ効果的な活用の推進。 ○持続可能な教科担任制の在り方について、中・高学年での検証を続ける必要がある。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・「真の学力」の育成に向けた指導方法及び指導体制の確立	①全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく授業改善を行う。 ②学びの指標をもとにした授業研究(ICTの活用等)を通して児童のエンジェンシーを育む授業改善を行う。	①全国学力・学習状況調査の平均正答率が昨年度から維持することができたか。(R5:国語78%、算数77%) ②学びの指標の平均値が向上したか。(R5. 17.6)	①全国学力・学習状況調査の平均正答率は国語が76%、算数が74%と昨年度を少し下回った。 ②学びの指標の平均値では、第1回から第2回で0.08P向上し、ほぼ全員が向上した。	A	①来年度は学校課題研究と管理職による授業参観・指導をリンクさせて個別最適な学びを深め、学力を向上させる。 ②学びの指標はチェックシートをもとに定期調査で確認し意識と実践力を高める。	・評価はAだが、その上を目指し、「個別最適な学び」の研究を進め、児童に必要な「真の学力」を更に身に付けられるよう期待します。 ・地域の消防団の活動を紹介することも可能なので、地域の人や施設について学び、地域を知る学習に役立ててもらいたい。 ・公民館が来年度は利用再開するので、地域の学習での活用を検討してもらいたい。	
2	<現状> ○学校評価の結果から、「いじめ防止に向けた取組やいじめ等に対して対応を行っている。」の項目(97%)、「困ったことや心配なことを相談できる体制になっている。」(91%)の項目で保護者の高評価を得られている。 ○安全点検は計画通り確実に実施できている。危機管理体制も改善してきている。 <課題> ○児童の問題行動、いじめ、教室に入れない子、不登校等に対し、組織でより効果的にかかわる必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全・安心な環境づくりと安全に関する指導の充実	①生徒指導・教育相談部会の行い方(頻度、協議内容等)を見直し、問題行動、いじめ、不登校等に対し、ケース会議を中心として、法に則ったより効果的に関わることのできる体制を作る。 ②サンキッズ相談日(教育相談の日)を定期的に実施する。必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、適切な支援を行う。	①学校評価の「いじめ防止」の項目で『そう思う』の割合を向上できたか。(R5:39%) ②学校評価における「相談体制」の項目で『そう思う』の割合を向上できたか。(R5:児童51%、保護者49%) ③サンキッズ相談での面談内容が、管理職及び関係職員に確実に共有・引継ぎされたか。	①学校評価の「いじめ防止」の項目で『そう思う』の割合は37%で少し下がった。 ②学校評価における「相談体制」の項目で『そう思う』の割合は児童53%、保護者47%でほぼ同じ。 ③相談内容については文書で内容の共有をして、改善に活用している。	A	①いじめの定義や対応について、学校だよりや懇談会で保護者に周知するとともに、教職員は共通認識し、組織で適切な対応を行う。 ②サンキッズ相談日をより周知し、SSW、SC、各種相談機関と連携し、相談者に寄り添った細やかな支援を徹底する。	・安全・安心やいじめについて、家庭での教育にも更に力を入れてもらいたい。 ・いじめの定義が変わったが、いじめ防止基本方針に則り、適切な対応を行っていてももらいたい。 ・保護者も含め、児童には権利の主張だけでなく義務を果たすことの大切さを理解し、行動できるようにしてもらいたい。	
3	<現状> ○「あいさつができること」は学校・保護者・地域共通の願いである。進んであいさつする児童は増えてきたがより浸透させたい。 ○新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴って、様々な工夫をしながらコロナ以前に近い形で学校行事等を実施することができた。 <課題> ○学校の教育活動や児童の様子などを参観する機会を設けるとともに「スクリレ」と学校ホームページを活用して情報の受け取り度を上げる工夫をする。	・目指す児童の姿を地域全体での共有 ・学校行事の公開や参観の機会の充実	①地域の方を主な対象として、学校ホームページの内容や使い方を見直し、地域に発信する情報を分かりやすくする。 ②主体的なあいさつを習慣化するため、児童の声を反映したあいさつ運動(生徒会との合同も含む)、スローガン、朝会での呼びかけ等を実践する。 ③教職員をはじめ、大人による登校時の立哨指導等により率先垂範する。	①学校評価における「家庭・地域等との連携」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R5:52%) ②③学校評価における「あいさつ」の『そう思う』の回答率が向上したか。(R5:児童65%、保護者等42%)	①回答率は51%であったが、今年度は児童の活動の様子を毎月アップすることができた。 ②「あいさつ」の回答率は、児童63%、保護者45%であった。毎水曜日の小中合同あいさつ運動や、児童会の教室巡回あいさつは効果的であった。 ③立哨指導や朝会等で教職員が挨拶の見本を示すことができた。	A	①学校だけでなく地域行事等の様子も伝えながら魅力あるHPとし、多くの地域の方に情報を発信していく。 ②「だいたいそう思う」を合わせると95%程度となり、多くの児童は「できる」と考えている。学校外でのあいさつや場に適したあいさつが更に行えるように、教えるべきことは教え、考えて実践させる。	・地域の行事案内等をもっと知ってもらえるようにしたらよいのではないかと。学校だよりやホームページ等で学校と地域が連携している様子を伝え、保護者にもっと知ってもらいたい ・スクリレで保護者の利便性は上がったが、配信が集中すると確認しにくいので、情報によって時間差をつけることよいのではないかと。	
4	<現状> ○タブレットPCをはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストを中心に研修及び情報共有を重ねており、全ての教員が、ICTを積極的に活用した授業を日常的に実施している。 ○大谷場中学校と連携し、「小・中一貫教育」の取組を継続し、よりよい教科担任制の在り方、共同で行う行事について模索している。 <課題> ○次年度以降の本校の教育活動に生かすことができる研究、研修を推進していく。	・資質向上に向けた教職員研修の充実	①エバンジェリストを中心に、情報部と連携して、教職員のICT機器の活用能力を向上させる研修を実施する。 ②小・中合同で授業力向上に係る校内研修や相互に参観する授業公開を実施する。 ③小・中の児童生徒の連携した学習や行事、その他の取組の仕方を工夫・創造し、実践する。 ④管理職との対話により、主体的な教職員研修(教職員のエンジェンシー育成)を支援する。	①エバンジェリストを中心に機器活用研修会を年4回以上実施したか。 ②「小・中一貫教育」の充実に向けた小・中合同研修会が年3回以上実施されたか。 ③小中学生が協働した実践を3回以上行ったか。 ④主体的に計画した研修が実施されたか。	①研修会はCanba、オクリンクプラス、Forms、Bookingの操作活用研修を行った。 ②長期休業や学校課題研究で小中合同研修会を任意を含めて3回実施した。 ③あいさつ運動や読み聞かせ、金管合同演奏会などを実施することができた。職員室前に交流コーナーを設置して互いに発信し合った。 ④当初面談で個に応じた研修を推薦したが、多くの教員がICTを活用した研修に自主的に参加した。心理士や特別支援免許を取得した教員もいた。	A	①新しいアプリが開発されていて、効果的なものもあり、エバンジェリストを中心に活用研修を継続する。 ②相互理解を深めるためにも、小中合同研修会を継続・発展させる。 ③小中学校が連携して、あいさつ運動や読み聞かせ、金管合同演奏会を継続する。 ④人事評価制度を活用し、当初面談での教職員への研修推奨を行うとともに、各自の自主性をもとに研修に取り組み、自己評価する体制を定着させる。	・先生方は新たな仕事が増えて多忙なので、効率よい研修になるとよい。 ・小中連携をこれからも更に継続して行ってもらいたい。	

